

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来！チャレンジ21」](#) > [2004年放送分](#) > 2月7日放送分 お年寄りが生き生きと～山梨・身延の竹炭企業組合～

2月7日放送分 お年寄りが生き生きと～山梨・身延の竹炭企業組合～

7日(TX・TVO・TSC)

8日(TVA・TVH・OX・TVQ・RCC・TVQ・OTV)

9日(BSJ)

山梨県の身延竹炭企業組合(出資金638万円、組合員数40名)は、山村の地域活性化を図るために設立された企業組合。手入れもされないまま放置された竹林の再生と、高齢者の生き甲斐づくりという二つの課題を竹炭の生産で一挙に解決へと導いた。多様な経歴をもつ高齢者の活用と企業組合という組織のメリットを生かした運営をする同組合の高齢化社会に対応した取り組みを紹介する。

お年寄りが生き生きと

～山梨・身延の竹炭企業組合～

[視聴覚教材No. TV15-45](#)

[動画配信中\(新規ウィンドウ\)](#)



山梨県身延町にやってきた志垣さん。おいしそうに食べている黒いお饅頭には竹炭が入っている。今日のテーマは竹炭。

お饅頭を買った店でなぜ竹炭が入っているのかを尋ねると「竹炭は健康にいい。地場産業として身延で作っている。」ということで、早速竹炭を作っている現場へ。





こちらが身延竹炭企業組合の片田義光理事長。とても元気な77歳。

身延町に広がる150haもの竹林は、人口減と高齢化により手入れもされず荒れていた。豊富な竹を利用して竹炭を作ろうと14年前に思い立ち、事業として成り立つようになったのは4年前から。

POINT: 竹は宝の山。地域の資源を活用。



ずらりと並んだ竹炭商品。ここで売るだけでなく、宅配で毎日全国へ配送する。地元商店街や山梨県内のほか、全国にファンが増えているのだそう。

組合員の平均年齢70歳。時給700円で働いている。片田理事長は「お年寄りが地域の活性化に貢献しながら、生きがいを感じてやっている。」と話す。



この組織は企業組合。「各組合員が最低5



万円の出資金を出し、同じレベルで仕事をしている。」と片田理事長。企業組合は小さな資本で事業を起こすことができる。

POINT: 企業組合は県の認可を受けた法人



組合のモットーは「やさしさと厳しさ」。高齢者なのでお互いにやさしく、しかし製品作りに対してはどこにも負けないものを作るという厳しさがある。

POINT: 厳しさとやさしさがモットー



新開発の竹切断機。歯が竹の周りを回って切り落とすので断面がきれいに切れて、高齢者でも安心して使える。生産性も向上した。

POINT: 作業効率向上とお年寄りの体をいたわって機械も導入



竹切断機を開発した丸大鉄工の大石社長は「竹の現場は危険が多いので、人が危険にならずに、かつ効率よく竹が切れるようにした。」と話す。



片田理事長は「時給700円に留まってはいけない。少しでもアップできれば、という



思いが常にある。」と最後に語った。

[ひとつ上の階層へ](#)

[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN